

令和4年度 豊かなむらづくり全国表彰事業
東北ブロック受賞事例の概要

【農林水産大臣賞】

奇跡の赤カボチャを町の至宝へ！

○団体名 おくあいつかねやまあか 奥会津金山赤カボチャ生産者協議会（会長 あおやぎ いちじ 青柳 一二）

○所在地 かねやままち 福島県金山町

○むらづくりの背景・経緯

金山町は、豪雪地帯の中山間地域であり、平坦な土地が少ないなど農業生産条件の厳しい地域である。主要産業の衰退などにより人口減の一途をたどり、全国でもトップレベルの高齢化率となっている。

協議会は、①特産品の開発・生産、②特産品の生産をとおしたコミュニティづくり、③農作業による健康長寿の町づくり、④特産品生産による都市との交流を目的に、地域で生産されていた「赤カボチャ」によるむらづくりを行ってきている。

○むらづくりの内容

（1）農業生産面

品質と生産量の確保のため、優良種子供給と出荷規格の統一、課題解決、コミュニティの場として、協議会が平成20年に設立された。町、県（金山普及所等）、JA会津よつばが協力して生産拡大や品質向上、販路拡大を支援している。また、①有害鳥獣対策、②食味の判断方法、③栽培方法の再検討、④類似品対策等の課題に対しても協力して改善している。

設立当初は、出荷量が約1t、出荷額は約50万円であったが、令和元年度には出荷量4.4t、出荷額220万円と約4倍まで向上した。また、冷凍加工品開発による通年出荷の検討のほか、住民や県内の菓子店による加工品の開発・販売も行われている。

（2）生活・環境整備面

協議会へは、認定農業者から自給的農家等の小規模農家まで町内の多くの農家が参画している。8割以上が70才代以上であるが、栽培には毎日の管理作業が必要であり、この作業が健康維持に役立っている。協議会では旧村単位に連絡員を配置し、担当地区の会員との連絡調整を行っている。また、現地指導会等の各種行事をとおして、コミュニケーションが図られている。さらに、消費者からの「美味しい」という声が生産者の励みになり好循環を生み出している。

赤カボチャは高齢者施設や学校給食に提供され町民の食生活、食文化の一部となっているほか、大学生のファームステイの受入も行うなど都市交流を図っている。

新規就農者は、令和元年度までの5年間で5名おり、そのうちの3名が赤カボチャを経営に取り入れている。



協議会スタッフ